

平成29年度

さいたま市図書館評価 報告書
(平成28年度事業対象)

平成29年11月

さいたま市立中央図書館

目 次

1	評価の目的と経緯	1
2	評価の方法	2
3	評価の結果	3
4	意見聴取	7
5	さいたま市図書館評価票（平成28年度）	
	【目標】①図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化	10
	【目標】②幅広く計画的な資料の収集・保存	11
	【目標】③地域の歴史と文化の保存	12
	【目標】④ICT（情報通信技術）を活用したサービスの充実	13
	【目標】⑤文化事業の開催	14
	【目標】⑥あらゆる世代に向けたサービスの充実	15
	【目標】⑦レファレンスサービスの充実	16
	【目標】⑧地域の課題解決	17
	【目標】⑨生活支援サービスの展開	18
	【目標】⑩バリアフリーサービスの充実	19
	【目標】⑪多文化サービスの充実	20
	【目標】⑫子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携	21
	【目標】⑬図書館評価と市民意識の反映	22
	【目標】⑭市民との協働	23
	【目標】⑮関連機関（公共機関・民間機関・NPO）との連携	24
	【目標】⑯地域の特色を生かした運営	25
	【目標】⑰親しみやすい図書館づくり	26
	【目標】⑱職員の資質・能力の向上	27
	【目標】⑲専門的職員の配置	28
	【目標】⑳施設・設備の充実	29
	【目標】㉑持続的で安定した図書館の運営	30
	【目標】㉒危機管理体制の強化	31
	参考資料	
	図書館法・図書館の設置及び運営上の望ましい基準	32
	さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項	33
	さいたま市図書館ビジョン	38

1 評価の目的と経緯

(1) 評価の目的

各年度の図書館サービス、その他図書館の運営状況について、目標及び事業の達成状況の点検・評価を行い、図書館サービスの向上を図るとともに、評価の結果を積極的に公表します。

(2) 評価の経緯

図書館法第7条の3において、「図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

また、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」においても、市町村立図書館はサービスの「達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない」とされています。

平成 21 年度	図書館評価について検討を開始
平成 22 年度	平成 21 年度の実績について評価を試行
平成 23 年度	平成 22 年度の実績について評価を実施
平成 24 年度	平成 23 年度の実績について評価を実施 「さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項」を制定
	平成 25 年 3 月に策定した「さいたま市図書館ビジョン」の 22 の基本方針のうち 16 項目を平成 25 年度の評価目標として指標及び目標値を設定
平成 25 年度	平成 24 年度の実績について評価を実施 「さいたま市図書館ビジョン」の 22 の基本方針のうち 20 項目を平成 26 年度の評価目標として指標及び目標値を設定
平成 26 年度	平成 25 年度の実績について評価を実施 「さいたま市図書館ビジョン」の 22 の基本方針を平成 27 年度の評価目標として、指標及び目標値を設定
平成 27 年度	平成 26 年度の実績について評価を実施

	「さいたま市図書館ビジョン」の 22 の基本方針を平成 28 年度の評価目標として、指標及び目標値を設定
平成 28 年度	平成 27 年度の実績について評価を実施
	「さいたま市図書館ビジョン」の 22 の基本方針を平成 29 年度の評価目標として、指標及び目標値を設定
平成 29 年度	平成 28 年度の実績について評価を実施
	「さいたま市図書館ビジョン」に基づく平成 30 年度の取組について評価の指標及び目標値を検討中

2 評価の方法

「さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項」に基づき、毎年度、図書館の運営状況について評価を行います。

さいたま市図書館では、平成 25 年 3 月に「さいたま市図書館ビジョン」を策定し、地域の知の拠点としての役割を果たしていくため、4 つの目標と 22 の基本方針を定めました。評価にあたっては、この基本方針を目標に設定し、目標ごとに指標及び目標値を定め、達成状況について評価を行います。
(p 38～参照)

評価の結果をホームページ等を活用して市民に公表します。また、この結果に基づき図書館運営の改善に努めます。

(1) 評価の流れ

評価に用いる指標を設定



各指標の目標値を設定



(事業実施)



目標値と照らして、指標となった取組の達成状況により評価



評価結果の報告と公表

(2) 指標・目標値の設定

平成 28 年度の事業を対象とする評価は「さいたま市図書館ビジョンに基づく取組内容（平成 28 年度）」により、一部の重複を含み 54 の指標と目標値を設定しています。

(3) 評価基準

評価を行うに当たり、各取組を明確に評価できるよう、以下の評価基準を定めています。

ア 指標の評価基準

指標の評価は、指標ごとに設定した目標値に対する事業の達成状況を目標達成率として、a～d の 4 段階で評価するものです。
また、a～d の各段階に対応した評点を与えます。

指標別評価	評価基準	目標達成率	評点
a	目標値を達成できた	目標値の 100%以上	3
b	目標値をほぼ達成できた	目標値の 80%以上 100%未満	2
c	目標値をあまり達成できなかった	目標値の 50%以上 80%未満	1
d	目標値を達成できなかった	目標値の 50%未満	0

イ 目標の評価基準

各目標に設定された指標の評点の平均点により、A～D の 4 段階で総合評価を行います。

総合評価	評価基準	評点の平均
A	目標を達成できた	2.7 以上
B	目標をほぼ達成できた	2.0 以上 2.7 未満
C	目標をあまり達成できなかった	1.0 以上 2.0 未満
D	目標を達成できなかった	1.0 未満

3 評価の結果

(1) 評価結果の一覧

平成 28 年度の評価結果は、次の表のとおりです。

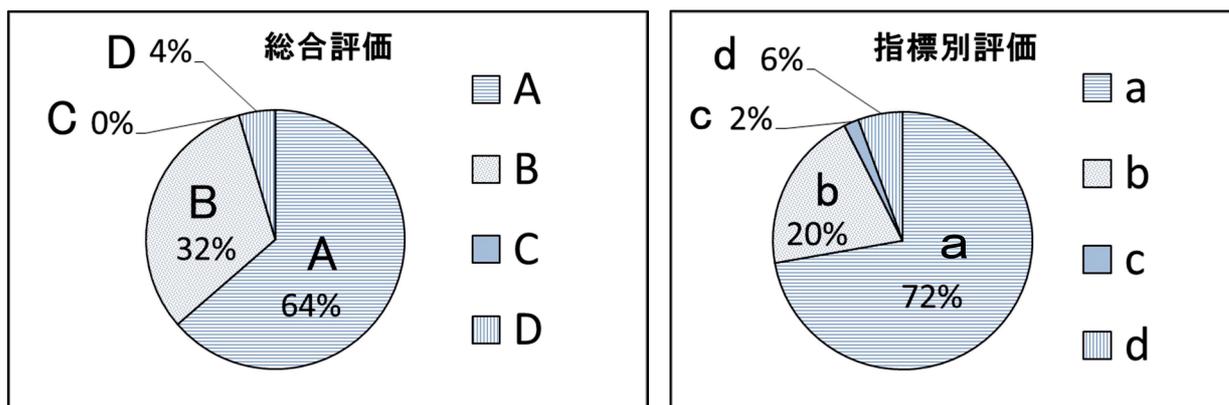
平成28年度図書館評価一覧

目 標		評価	指 標
知的 好奇心に 応える 図書館	① 図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化	B	新規登録者数 = b 貸出総数 = a 来館者数 = b 貸出利用人数 = b 市民一人当たり貸出数 = b メールマガジン配信件数 = a
	② 幅広く計画的な資料の収集・保存	B	資料回転率 = a 雑誌タイトル数 = b 新聞タイトル数 = b 所蔵タイトル数(図書) = a 蔵書冊数(市民一人当たり) = b 寄贈資料受入点数 = a
	③ 地域の歴史と文化の保存	B	地域・行政資料の蔵書数 = b デジタル化した地域資料のインターネット公開 = a
	④ ICT(情報通信技術)を活用したサービスの充実	B	ホームページコンテンツの充実 = a インターネット延利用人数 = b 自動貸出機の導入の推進 = a
	⑤ 文化事業の開催	A	講座等の実施回数 = a 映画会開催回数 = a 展示会の開催回数 = a
生きる 力を 支える 図書館	⑥ あらゆる世代に向けたサービスの充実	B	テーマ資料展示の実施回数 = b 各世代向けの本の紹介資料作成 = a
	⑦ レファレンスサービスの充実	A	レファレンス受付件数 = a レファレンス事例の公開件数(年間) = a 職員レファレンス研修の開催回数 = a パスファインダー(調べ方案内)作成数 = b
	⑧ 地域の課題解決	A	行政支援サービスの実施 = a
	⑨ 生活支援サービスの展開	A	日常生活での課題解決に関わる分野の情報提供への取組 = a
	⑩ バリアフリーサービスの充実	A	音訳資料・点訳資料貸出数 = a 対面朗読回数 = a 宅配サービスの貸出数 = a
	⑪ 多文化サービスの充実	D	外国語資料の受入点数 = d
	⑫ 子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携	B	小学生の不読者の割合 = d 中学生の不読者の割合 = d 子ども向け行事開催数 = a 読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施 = a 子ども向けの資料案内の作成 = a 学校・保育園等に対する訪問・招待実施回数 = a
市 歩 む と 図 書 館 に	⑬ 図書館評価と市民意識の反映	A	図書館評価の実施と公表 = a アンケートによる満足度調査の実施と公表 = a
	⑭ 市民との協働	A	ボランティアとの協働事業数 = a ボランティアとの協働事業延実施回数 = a
	⑮ 関連機関(公共機関・民間機関・NPO)との連携	A	連携事業実施機関数 = a 職場体験の受入件数 = a
	⑯ 地域の特色を生かした運営	A	地域の特色に関連した資料を活用した情報発信 = a
誰 も 使 が え る 心 安 し て 図 書 館	⑰ 親しみやすい図書館づくり	A	「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」における満足度 = a
	⑱ 職員の資質・能力の向上	B	内部研修の実施回数(図書館で行われる研修全て・市主催の研修は外部とする) = a 外部研修の派遣件数(図書館以外の全て・市主催の研修を含む) = c
	⑲ 専門的職員の配置	A	専門性の向上につながる研修の受講 = a 専門性を生かした適切な資料提供と紹介の実施 = a
	⑳ 施設・設備の充実	A	施設・設備の計画的な改修及びバリアフリー化の推進 = a
	㉑ 持続的で安定した図書館の運営	A	業務マニュアルの整備・見直し = a 新たな財源確保や経費節減事業の実施 = a
	㉒ 危機管理体制の強化	A	職員の危機管理意識を高める取組 = a

評価基準別にみると、以下のとおりとなります。

評価基準	A	B	C	D	合計
総合評価	14	7	0	1	22

評価基準	a	b	c	d	合計
指標別評価	39	11	1	3	54



(2) 評価

ア 平成 28 年度さいたま市図書館の状況

- ・春野図書館 平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日 中規模修繕のため休館。
- ・岩槻図書館 平成 28 年 10 月 31 日～11 月 11 日 外構工事のため休館
- ・岩槻東部図書館 平成 28 年 11 月 22 日～12 月 6 日 中規模修繕のため休館。
- ・電子書籍サービス 平成 28 年度中に 3,000 タイトルを追加。
- ・図書館ホームページ 改修により、紙媒体資料と電子書籍が同時に検索できる機能などの各種サービス環境を充実。
- ・子どもの読書調査 さいたま市立教育研究所の実施する学習状況調査により、平成 29 年 1 月に実施。この調査より、市内小中学校を対象とした抽出調査から全校調査に変更。

イ 評価の説明

「目標を達成できた」と「ほぼ達成できた」を合わせると、総合評価で 96%、指標別評価で 92% 達成することができました。

「さいたま市図書館ビジョン」で掲げる4つの目標ごとに達成状況をみると、「知的好奇心に応える図書館」では、総合評価でAが1つ、Bが4つとなっています。おおむね良い評価となったなかでも、【目標】①の指標である貸出総数については、平成27年度実績から約8万点増加し、目標値を大きく上回りました。中規模修繕による長期休館があった春野図書館では貸出点数が減りましたが、美園図書館の初めての通年開館や電子書籍の利用の拡大等により、全体としては貸出数が伸びたものと思われます。また【目標】⑤の文化事業の開催については、3つの指標すべてにおいて、前年度の実績を上回りました。

「生きる力を支える図書館」は、Aが4つ、Bが2つ、Dが1つとなりました。Dとなった【目標】⑪の外国語資料の受入点数は、目標値を大きく下回りました。これは、平成27年度は館によって資料収集の重点項目とした、または開館に向けて揃える等の理由で外国語資料の購入を多めにしたため、翌年の平成28度は購入を控えた結果によるものと思われます。また、指標別評価でdとなった【目標】⑫の小・中学生の不読者の割合は、調査方法や調査時期の変更が影響していると考えられます。一方で、【目標】⑦のレファレンス受付件数や【目標】⑩の宅配サービスの貸出数については、前年度より増加し、目標値を大きく上回りました。

「市民とともに歩む図書館」は、Aが4つとなりました。なかでも、【目標】⑭のボランティアとの協働事業数や、【目標】⑮の連携事業実施機関数が前年よりも増加し、目標値も大きく上回りました。

「誰もが安心して使える図書館」は、Aが5つ、Bが1つとなりました。【目標】⑱の研修数については、外部研修の参加件数は減少しましたが、内部研修の実施回数が目標値の約2倍と大きく増加しました。また「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」における満足度では、昨年度に引き続き高い評価をいただきました。

4 意見聴取

「さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項」第4条に基づき、平成29年度第1回図書館協議会（7月31日開催）において、評価票（平成27年度）の報告及び意見聴取を行いました。8月28日までの意見聴取期間を含めて、協議会委員より寄せられた意見は次のとおりです。

(1) 知的好奇心に応える図書館

ア【目標】① 図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化

- ・ホームページを活用して情報発信に努めるとあり、メールマガジン配信件数を指標として評価しているが、ホームページのアクセス数を評価の対象としないのか。

イ【目標】② 幅広く計画的な資料の収集・保存

- ・【目標】②の取組内容にある市民のニーズは、どのように把握しているか？市民のニーズによって、資料の収集を計画しているということか？
- ・高齢者に役立つ医療情報等の充実をお願いする。
- ・LGBTに関して、資料の充実等に取り組んでほしい。
- ・リベラルアーツの選書に取り組んでほしい。

ウ【目標】④ ICT（情報通信技術）を活用したサービスの充実

- ・コンピュータシステムの更新を行い、読書記録を付けられるようになったのは良いことだが、レファレンスについても、ホームページ上でのサービスが充実すると、よりレファレンスを活用する機会が増えるのではないか

エ【目標】⑤ 文化事業の開催

- ・文化事業の講座の実施回数あるいは【目標】⑫の行事開催数にしても、開催回数のみで評価しているが、参加者の人数について分析しているか？どのくらいの人数か？

(2) 生きる力を支える図書館

ア【目標】⑥ あらゆる世代に向けたサービスの充実

- ・お年寄り向けの紙芝居リストがあることを教えていただき、大変参考になったが、そのようなリストが利用できるように

なっているとありがたい。

イ【目標】⑦ レファレンスサービスの充実

- ・レファレンスの受付件数の内訳について、その内容が、単なる蔵書資料の検索なのか、レファレンスなのか、分析ができるとなお良いと思う。

ウ【目標】⑫ 子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携

- ・【目標】⑫の指標にある、小学生と中学生の不読率とは何か？
- ・ぬいぐるみのお泊まり会とは、どのような行事か？
- ・ボランティア向けの読み聞かせのためのブックリストは大変参考になった。また、作成されると良い。
- ・としょ丸しんぶんも、参考になった。紹介されていた本を展示するのも良いのでは。
- ・学童・放課後児童教室に通う子どもの増加が、おはなし会に来る子どもの減少の一因になっている。ボランティア団体が、学童のサポートに入ろうとしてもガードが固くて、行事等を行えない。学童に対する図書館としての支援を考えてほしい。
- ・おはなし会を行うボランティア団体が高齢化し、実働人数は年々減っている。若い人を活動に取り込むことが課題となっている。ボランティアを加えて成り立っている事業もあると思うので、今後、どのように現状のサービスを維持するのか考えて欲しい。

(3) 市民とともに歩む図書館

ア【目標】⑭ 市民との協働

- ・イベント等で、高校生のボランティアを導入すると、力になるのでは

イ【目標】⑮ 関連機関（公共図書館・民間機関・NPO）との連携

- ・これからも、公民館との連携を進めてはどうか。

(4) 誰もが安心して使える図書館

ア【目標】⑲ 専門的職員の配置

- ・学芸員や司書が、持っている力を発揮できるよう配慮をしてもらえるといい。

- ・専門的職員の配置について、図書館に長くいる職員と2～3年度で異動する職員の割合は？
- ・男女共同参画の観点から、女性の図書館長をもっと増やして欲しい。

イ【目標】⑳ 施設・設備の充実

- ・施設改修は、トイレの改修がまず入り口なのかなと思う。

ウ【目標】㉑ 持続的で安定した図書館の運営

- ・【目標】㉑の評価の説明に出てくる、パンフレットラックのパンフレットはどのようなものか。広告付マットとは、足元に敷くマットのことか？

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】①	図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用促進のために、広報媒体等を効果的に活用し、PRに努めます。 ・各図書館の広報担当者が発信する情報を一元化し、ホームページやメールマガジン等を活用して図書館サービスについての情報発信に努めます。 ・図書館のサービスや催し物の広報活動を積極的に行い、記者発表資料などを通じて、図書館を利用したことのない人にも図書館の情報が届くようにします。 ・図書館利用のマナーをPRし、誰もが気持ちよく利用できる環境作りを推進します。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
新規登録者数	33,900人	32,603人	b
貸出総数	10,079,000点	10,129,811点	a
来館者数	7,200,000人	6,952,186人	b
貸出利用人数	2,825,000人	2,696,836人	b
市民一人当たり貸出数	9.1点以上	7.9点	b
メールマガジン配信件数	13,300件	16,879件	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「貸出総数」は目標値を達成し、平成27年度実績を上回りました。</p> <p>しかし「新規登録者数」、「来館者数」、「貸出利用人数」は、目標値には届きませんでした。</p> <p>平成28年度は、中規模修繕に伴う臨時休館が春野図書館で181日間、岩槻東部図書館で15日間あり、岩槻図書館では12日間の修繕による休館がありました。一方で、平成28年1月に開館した美園図書館が通年開館しましたが、長期休館の影響もあり目標値には至りませんでした。</p> <p>また「市民一人当たり貸出数」は、貸出総数を人口で割ったものですが、当初目標値で設定したほど数値が伸びませんでした。</p> <p>「メールマガジン配信件数」は、目標値を大きく上回りました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】②	幅広く計画的な資料の収集・保存	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のニーズに応えるため、効果的・計画的に資料を収集・保存し、幅広い蔵書を整備します。 ・寄贈資料や除籍資料を有効活用します。 ・電子書籍サービスの充実に努めます。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
資料回転率	2.77点	2.77点	a
雑誌タイトル数	859タイトル	853タイトル	b
新聞タイトル数	125タイトル	121タイトル	b
所蔵タイトル数（図書）	1,078,000タイトル	1,080,813タイトル	a
蔵書冊数（市民一人当たり）	2.87点	2.85点	b
寄贈資料受入点数	17,900点	19,915点	a

<p>【評価の説明】</p> <p>資料が平均何回貸し出しされたかを示す「資料回転率」（貸出総数／所蔵総数）は、目標値を達成することができました。これは、貸出総数が伸びたことによるものです。また、平成28年度においても電子書籍サービスの充実に努め、タイトル数を3,364点に増やしました。図書の現物による選書を行い、市民のニーズを把握する要素となるリクエストやレファレンスに応えた積み重ねが、貸出総数や資料回転率の伸びにつながったものと思われます。</p> <p>雑誌・新聞タイトル数が減ったのは、主に休刊や寄贈の中止等によるものです。「蔵書冊数（市民一人当たり）」については、蔵書数は着実に増えていますが、目標には届かない結果となりました。一方で、所蔵タイトル数については、目標値を上回ることができました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】③	地域の歴史と文化の保存	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報拠点として行政資料・地域資料を積極的に収集します。また、地域の記録を残す活動を支援します。 ・デジタル化した地域資料をインターネットで公開します。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
地域・行政資料の蔵書数	141,200点	140,579点	b
デジタル化した地域資料のインターネット公開	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「地域・行政資料の蔵書数」は、目標値にわずかに及びませんでした。それに近い点数を収集し、蔵書数は平成27年度より5,255点増えています。</p> <p>「地域資料のデジタル化」については、利用が見込まれる現在再入手が困難な歴史叢書、市にゆかりのある歌集など35点を選び、合計3,506頁のデジタル化を行いました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】④	ICT（情報通信技術）を活用したサービスの充実	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館ホームページのコンテンツの充実を図ります。 ・無線LANの導入を推進し、ネットワーク環境を整備します。 ・利用者自身が迅速に貸出手続きを行えるよう、自動貸出機の導入を推進します。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
ホームページコンテンツの充実	実施	実施	a
インターネット延利用人数	131,000人	126,356人	b
自動貸出機の導入の推進	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>ホームページコンテンツの充実については、ホームページ上でテーマ展示の紹介をする際にブックリストの添付を始めるなど、新たなコンテンツの作成を行い、さらに充実した情報提供を行いました。</p> <p>各図書館のインターネット閲覧端末を利用した人の数を示す「インターネット延利用人数」は、わずかに目標値に達しませんでした。家庭・職場でのインターネット環境の整備やスマートフォンの普及により、利用者の必要性が減少してきたことが一因と思われます。なお、目標の設定時は「インターネット（無線LAN）延利用人数」として、無線LANの利用人数も含む予定でしたが、目標値を設定した平成26年度の時点では、環境が整わず参考となる数値が無かったことから、目標値には無線LANの利用を含んでいないため、今回の評価では対象としませんでした。昨年度は、5館で無線LANを提供しており、延約24,000人の利用がありました。</p> <p>自動貸出機導入を3館で併せて4台導入し、利用者の利便性を高めました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑤	文化事業の開催	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座・講演会・映画会・展示会等を開催し、市民の文化活動・読書活動を支援します。 ・文化事業開催時にアンケートを実施し、市民のアイデアを生かした事業を企画・開催します。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
講座等の実施回数	110回	133回	a
映画会開催回数	90回	105回	a
展示会の開催回数	12回	17回	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「講座等の実施回数」は、一般向けの講座が増加したこと等により目標値を上回りました。</p> <p>「映画会開催回数」は、平成27年度の実績より14回増加し、目標値を上回りました。</p> <p>「展示会の開催回数」は、中央図書館で開催された「創業・ソーシャルビジネス」についての展示のほか、関係機関との連携事業による展示会が開催され、目標を達成しました。</p> <p>また、参加者数については、会場の規模や開催日の天候等により左右されることから評価の対象とはしていませんが、文化事業の年間参加者数の合計は、44,109人のほり、前年の41,719人に比べ、2,390人増加しています。</p>

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑥	あらゆる世代に向けたサービスの充実	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書に関する催し物等を実施し、本に親しむ機会を提供します。 ・テーマ展示を充実させ、読書の楽しみを広く伝えます。 ・児童・中高校生・社会人・高齢者等、それぞれの世代に向けた本の紹介資料を作成します。 ・乳幼児から高齢者まで、誰もが利用でき、交流の生まれる市民の広場となるよう努めます。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
テーマ資料展示の実施回数	943回	929回	b
各世代向けの本の紹介資料作成	126点	138点	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「テーマ資料展示の実施回数」は、平成27年度の実績より37回上回りました。実績は順調に伸びていますが、目標には届きませんでした。</p> <p>「各世代向けの本の紹介資料作成」では、「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」、「博物館×図書館2016」といった他施設との連携によるテーマ展示のブックリストや、読み聞かせにおすすめの絵本をリスト化した「ボランティア向け読み聞かせブックリスト」などの作成が行われたことなどにより、目標値を上回りました。</p> <p>中央図書館では、平成26年度・27年度に引き続き、中学生・高校生による知的書評合戦（ビブリオバトル）を開催し、本に親しむ機会を提供しました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑦	レファレンスサービスの充実	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レファレンスサービス事例のデータベース化を進め、過去の質問や回答など調査に役立つ情報を提供します。 ・パスファインダーやテーマ別ブックリストを作成するとともに、ホームページに掲載して市民に広く公開します。 ・内部研修を実施し、また外部の専門的な職員研修に参加して調査技術の向上を図ります。 ・国立国会図書館や公立図書館、大学図書館、専門機関と連携し、高度な調査・相談にも対応します。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
レファレンス受付件数	115,800件	130,674点	a
レファレンス事例の公開件数（年間）	215件	221件	a
職員レファレンス研修の開催回数	11回	14回	a
パスファインダー（調べ案内）作成数	10タイトル	8タイトル	b

<p>【評価の説明】</p> <p>「レファレンス受付件数」は、全25館中15館で前年度より増加し、目標値を上回りました。また、「職員レファレンス研修の開催回数」も、目標値を上回りました。</p> <p>「レファレンス事例の公開件数」は、平成27年度に引き続きレファレンス事例登録研修を行い、目標値を上回りました。</p> <p>「パスファインダー作成数」については、目標値には届きませんでした。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑧	地域の課題解決	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり等、地域の課題となる分野に関して、市民に必要とされる資料を収集し提供します。 ・市の行政機関に対して、業務に関する資料や情報を提供します。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
行政支援サービスの実施	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>行政支援サービスについては、「行政支援貸出」として制度化し、平成28年度は12課の登録申請を受けました。現在30課の登録があり、支援貸出を実施しています。登録の有無にかかわらず、平成28年度は35件の問い合わせを受け、業務に関する資料の貸出20件・複写13件、並びにレファレンスの回答2件を行いました。</p> <p>さらに、行政事務に役立つ資料・情報を掲載した「行政支援のブックファイル」を3件作成し、庁内に公開しました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑨	生活支援サービスの展開	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <p>・ビジネス、法律、医療、健康、福祉及び子育てに関する情報の提供等、市民の暮らしに直接関わる分野の情報提供に努め、それぞれの分野の専門機関との連携・協力を図ります。</p>			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
日常生活での課題解決に関わる分野の情報提供への取組	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>情報提供への取り組みとしては、中央図書館で創業に関する相談会を延35回行い、156人の参加をいただきました。</p> <p>講座を通じた情報提供としては、医療の分野では、乳がんの健康講座を行い、子育ての関連では、子育て支援講座等を行うことにより、生活支援サービスの提供を行いました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑩	バリアフリーサービスの充実	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用に障害がある方へ配慮した、資料や機器・機材の整備・充実に努めます。 ・大活字本や字幕入り・手話入りの映像資料等の所蔵リストや利用に関する情報を、障害のある方にもホームページ等で利用しやすいように提供します。 ・活字による読書に障害のある方のために、関係機関・団体と連携を図り、録音図書や点字図書・点訳絵本の作製・貸出、対面朗読などを実施し、きめ細かい図書館サービスを提供します。 ・来館が困難な方への宅配サービスに関する広報活動を積極的に行います。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
音訳資料・点訳資料貸出数	8,460点	8,733点	a
対面朗読回数	225回	316回	a
宅配サービスの貸出数	282点	545点	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「音訳資料・点訳資料貸出数」は、利用者自身がインターネットからダウンロードできる音訳資料が増加していることなどの影響により、平成27年度より約450点減少していますが、目標は達成しました。</p> <p>「対面朗読回数」は、平成27年度に引き続き、利用者が増加したことにより目標値を上回りました。</p> <p>「宅配サービスの貸出数」においても、平成27年度に引き続いて登録者数が増加するとともに、積極的な利用をされる方も増えたため目標値を大きく上回りました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑪	多文化サービスの充実	【総合評価】	D
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な言語や文化の情報を提供するために、外国語資料の収集に努めます。 ・ボランティアや関連機関と協働し、日本語以外を母語とする人たちにも、生活に役立つ情報を提供します。 ・ボランティアと協働し、多言語でのおはなし会を実施します。 ・市民が様々な言語に気軽にふれることができるよう、外国語絵本等の展示を行います。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
外国語資料の受入点数	650点	180点	d

<p>【評価の説明】</p> <p>「外国語資料の受入点数」は、目標値を大幅に下回りました。ほぼ全館において前年度より減少していますが、これは各館の事情により外国語資料の購入を抑えたことによるものと考えられます。平成29年度は、各図書館で目標達成に向けて、積極的に外国語資料の購入を行っていきます。</p> <p>ボランティアと協働で行った多言語でのおはなし会は、中央図書館・北浦和図書館・大宮図書館・武蔵浦和図書館・南浦和図書館の5館で延べ10回実施しました。実施館は平成27年度より1館増え、実施回数も1回増えました。</p> <p>また、外国語絵本等の展示については、9館で実施しました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑫	子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さいたま市子ども読書活動推進計画（第三次）」に基づき、各図書館で、子どもが読書に親しめる環境づくりを進め、「不読者」の割合を小学生2%以下、中学生5%以下にします。 ・中学校へ実施している学級文庫用図書の貸出を小学校にも拡大します。 ・おはなし会や本に関する催し物等を実施し、本に親しむ機会を提供します。 ・子育て世代やシニア世代、保育者や教職員等を対象に読み聞かせや本に関する講座・講演会を開催するとともに、「子どもといっしょに読書タイム」を提唱し、家庭での読書の大切さを伝えます。 ・子ども向けの読書案内や読書手帳を計画的に作成し、子どもと本をつなぐ手助けをします。 ・学校図書館支援センターによる教科関連図書の収集・貸出・レファレンス・情報提供を行います。 ・保育園・学校等を対象に読み聞かせや図書館オリエンテーション、貸出サービスを実施します。 ・市立高等学校図書館との連携を進めます。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
小学生の不読者の割合	2%以下	4.08%	d
中学生の不読者の割合	5%以下	10.71%	d
子ども向け行事開催数	1,250回	1,346回	a
読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施	8回	18回	a
子ども向けの資料案内の作成	35回	37回	a
学校・保育園等に対する訪問・招待実施回数	212回	372回	a

<p>【評価の説明】</p> <p>1ヶ月間に本を1冊も読まなかった児童・生徒の全体に占める割合を見る「不読者の割合」は、小・中学校とも目標値を大きく下回りました。これには、平成28年度から、調査対象が抽出校から市内全市立小中学校に変わり、小学校が24校から103校へ、中学校が24校から57校の全クラスへ増加したことなど、調査対象や調査方法の変更も影響していると考えられます。</p> <p>「子ども向け行事開催数」は、目標値を大きく上回りました。従来からの「おはなし会」、「あかちゃんおはなし会」に加え「多言語おはなし会」、「ぬいぐるみの図書館おとまり会」（ぬいぐるみが図書館にお泊りし、子どものために本を選ぶ仕事等をし、それを撮影した写真で作ったアルバムをプレゼントすることで、子どもの読書意欲を引き出す催し）、「カプセルくじを引いておすすめ本を当てよう!」、「かがくあそび」など、各館で特徴的な行事の開催も見受けられ、子どもが読書に親しめる環境づくりを進めている成果が伺えます。</p> <p>「読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施」に関しても、地域の小学校の図書館ボランティア向けの講座や、祖父母・父親を対象にした読み聞かせ講座も行われ、目標値を大きく上回りました。</p> <p>「子ども向け資料案内の作成」は、武蔵浦和図書館で乳幼児向け資料案内リスト『いつもいっしょにvol.1』を新たに作成するなど目標値を大きく上回りました。</p> <p>「学校・保育園に対する訪問・招待実施回数」は、目標値を大きく上回り、保育園や学校との連携が進んでいる成果を見ることができます。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑬	図書館評価と市民意識の反映	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の運営状況及びサービスの評価を行い、その結果を市民に公表します。 ・図書館サービスの充実・向上を図るため、図書館の利用に関するアンケートを実施します。 ・図書館協議会を開催して市民の意見を聴き、図書館サービスを向上させます。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
図書館評価の実施と公表	実施	実施	a
アンケートによる満足度調査の実施と公表	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>図書館評価については、平成27年度事業を評価の対象とし、図書館協議会の意見を踏まえて報告書としてまとめ、公表しました。</p> <p>図書館来館者を対象として行ったアンケート調査については、9月15日から25日までの10日間、休館中の春野図書館を除く計24館で実施しました。3,765件の回答があり、調査結果は、平成29年1月5日から2月5日まで24館で館内に掲示したほか、ホームページに掲載し公表しました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑭	市民との協働	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で活動するボランティアへの支援や、ボランティアと連携した事業活動により、市民との協働を積極的に進めます。 ・区民まつりをはじめ、地域で開催される催し物等に積極的に参加します。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
ボランティアとの協働事業数	105事業	125事業	a
ボランティアとの協働事業延実施回数	697回	760回	a

<p>【評価の説明】</p> <p>読み聞かせやおはなし会など、各ボランティア団体と協働した事業数は、平成27年度の実績から14事業、延実施回数で45回増加しており、それぞれ目標値を達成しました。各館で、協働を推し進めた結果の表れと考えられます。</p> <p>特に「展示会における絵本の読み聞かせ（中央図書館）」を12回行った他、各図書館で、ボランティア団体との協働のおはなし会を実施していることなどの効果が出ていると思われます。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑮	関連機関（公共機関・民間機関・NPO）との連携	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館や県内市町村立図書館との連携を進め、相互貸借や地域資料等の分担収集・保存等を行います。 ・国立国会図書館や公立図書館、大学図書館、専門機関との連携により、専門的調査の充実を図ります。 ・市の関連部局や他の教育・文化・福祉施設と連携した事業を行います。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
連携事業実施機関数	24機関	42機関	a
職場体験の受入件数	91件	107件	a

<p>【評価の説明】</p> <p>連携事業は、共済病院との健康講座「乳がん・知っておきたい基礎知識」など、新たに連携した機関との事業の他、美術館や博物館、公民館、コミュニティセンターや小学校などの各種機関との連携も引き続き実施し、目標値を大きく上回りました。</p> <p>職場体験は、中学校の「未来（みら）くるワーク体験」をはじめ、高校のインターンシップや、大学生の司書資格取得のための図書館実習などを受け入れたことにより、目標値を達成しました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑯	地域の特色を生かした運営	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー、鉄道、盆栽、人形等、地域の歴史・特色に関連した資料を活用し、図書の展示や紹介等の情報発信を行います。 ・地域に関係する団体・機関との連携・協働による事業を行います。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
地域の特色に関連した資料を活用した情報発信	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>地域の特色に関連した資料の紹介のため、北浦和図書館の『読むうなぎ』、『読むサツマイモ』、東浦和図書館の『We read REDS!』、大宮西部図書館の『Train Library』、与野図書館の『バラのまちだより』などのブックリストを作成・配布しました。</p> <p>また、大宮図書館、春野図書館では、大宮アルディージャとの連携事業に合わせた関連資料の展示を行い、岩槻図書館では「まちかど雛めぐり」に合わせた関連資料の展示を行いました。</p> <p>その他、桜図書館の『新さくらとしょかんBOOK』の発行や、北図書館の「盆栽コーナー」、「漫画文化コーナー」、武蔵浦和図書館の「別所沼ゆかりのコーナー」の常設展示など、地域に根差した情報発信も行っています。</p>

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑰	親しみやすい図書館づくり	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者への挨拶や、声かけで明るく親しみやすい窓口づくりに努めます。 ・利用者に、わかりやすく丁寧な対応をします。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」における満足度	「満足」と「やや満足」で 86%	「満足」と「やや満足」で 89%	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」で、施設や予約のサービス、職員の対応など5つの項目において「満足・やや満足・やや不満・不満」の4つの選択肢から回答してもらったところ、「満足」と「やや満足」を合わせた結果は、目標値を超え89%となりました。</p> <p>なお、5つの項目のうち「職員の対応や説明」については、「満足」と「やや満足」を合わせた結果が96%と高い評価となりました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑱	職員の資質・能力の向上	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成を図るため、研修計画を作成し実施します。 ・職員のスキルアップのため、外部研修にも積極的に参加します。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
内部研修の実施回数（図書館で行われる研修全て・市主催の研修は外部とする）	56回	115回	a
外部研修の派遣件数（図書館以外の全て・市主催の研修を含む）	49件	37件	c

<p>【評価の説明】</p> <p>「内部研修」としては、中央図書館資料サービス課が主催し全館を対象とした「レファレンス研修」、「接客能力向上研修」、「バリアフリー研修」、「パスファインダー研修」、「児童サービス研修」などを実施しました。また、各館においても、「データベース操作研修」など独自に企画した課内研修を行った結果、目標値を大きく上回りました。</p> <p>「外部研修」については、市職員のスキルアップのための市主催の「シティセールス研修」、「人権問題研修」、「ユニバーサルデザイン体験研修」、「ICTスキルアップ研修」、「男女共同参画職員研修」などに職員を派遣しました。派遣件数は目標値を下回ったものの、専門性を高めるための「児童図書館員養成講座（日本図書館協会主催）」や「図書館等職員著作権実務講習会（文化庁主催）」などにも参加しており、内容は充実していました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑱	専門的職員の配置	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館サービスの向上を図るために、専門的職員の配置に努めます。 ・ 司書は専門性を生かし、資料・情報の提供及び紹介などを通じて、市民の高度で多様な要求に適切に応えます。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
専門性の向上につながる研修の受講	実施	実施	a
専門性を生かした適切な資料提供と紹介の実施	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「専門性の向上につながる研修の受講」としては、「児童図書館員養成専門講座（日本図書館協会主催）」、「図書館司書専門講座（文部科学省主催）」、「図書館等職員著作権実務講習会（文化庁主催）」、「参考調査研修会」、「図書館中級職員研修会」（いずれも埼玉県図書館協会主催）などを受講しました。</p> <p>「専門性を生かした適切な資料提供と紹介の実施」としては、様々なテーマでの図書の展示と展示テーマに沿ったブックリストの作成を行い、他機関と連携したパネル展示においても、ブックリストを作成しました。例えば、中央図書館では「がん検診普及事業」に関連して『がんを考える』、「自殺対策普及啓発」に関連して『メンタルヘルスを考える』というブックリストを作成しています。</p> <p>また、小学校との連携事業において、読み聞かせボランティアの方へ、読み継がれてきた絵本の紹介と読み聞かせ方の実技指導を行うなど、司書の専門性を生かした取り組みを行いました。</p> <p>取組内容の「専門的職員の配置」については、約6割の職員が司書資格を有しており、今後も専門的職員の配置に努めます。</p>

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑳	施設・設備の充実	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館施設リフレッシュ計画」に基づき、春野図書館・岩槻東部図書館の改修を行います。 ・大宮図書館の移転に向けて準備を行います。 ・各図書館内を点検し、わかりやすい案内表示を作成する等施設のバリアフリー化に努めます。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
施設・設備の計画的な改修及びバリアフリー化の推進	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>春野図書館と岩槻東部図書館の中規模修繕工事を行いました。また、平成29年度に向けて、岩槻図書館の大規模改修工事設計、北浦和図書館の中規模修繕工事設計を行いました。</p> <p>この他に、南浦和図書館のトイレ洋式化修繕を行い、バリアフリー化に努めました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】②	持続的で安定した図書館の運営	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館サービスの調査研究を行うため図書館専門部会を開催して、問題点や課題を整理し、計画的で円滑な運営を行います。 ・窓口等業務委託の評価・検証を行い、図書館サービスの充実と向上に努めます。 ・広告料収入等、財源確保や経費節減の取組を継続的に行います。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
業務マニュアルの整備・見直し	実施	実施	a
新たな財源確保や経費節減事業の実施	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「業務マニュアルの整備・見直し」については、図書館業務システムの入れ替えの際に実施しましたが、平成28年度にさらに見直しを行い、整備をしました。</p> <p>「新たな財源確保や経費節減事業の実施」のうち、財源確保については、大学等の教育機関の入学案内・募集要項や講座情報他のパンフレットを配置したパンフレットラック（11館）と、床敷きのマットに広告が入っている広告付マット（4館）の設置により収入を得ました。</p> <p>また、経費節減事業については、引き続き雑誌スポンサー事業（4館）を実施しました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成28年度）

【目標】⑳	危機管理体制の強化	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館危機管理対応マニュアル」を基に、利用者の安全確保のため危機管理体制を強化します。 ・防災訓練や研修を通じて職員の危機管理意識を高めます。 			

指 標	平成28年度の目標値	平成28年度の実績	指標別評価
職員の危機管理意識を高める取組	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>図書館危機管理マニュアルに基づき、中央図書館と拠点館において、大規模地震を想定した防火訓練（消防訓練含む）や、AED操作訓練などを実施しました。複合施設内で運営している図書館では、施設ごとに実施される合同の消防訓練に参加しました。</p> <p>また、各館で、職員・スタッフによる館内巡回を実施し、利用者の安全の確保に努めました。</p> <p>各拠点館ごとに、コンプライアンスのミーティングや、マイナンバーなどの情報セキュリティに関する研修を行って職員の危機管理意識を高め、職場内におけるコンプライアンス遵守を推進しました。</p>

参考資料（図書館法・図書館の設置及び運営上の望ましい基準）

（１）図書館法（昭和二十五年四月三十日法律第百十八号）

最終改正：平成二三年一二月一四日法律第一二二号

（運営の状況に関する評価等）

第七条の三 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（２）図書館の設置及び運営上の望ましい基準

（平成 24 年 12 月 19 日 文部科学省告示第 172 号）

（二）運営の状況に関する点検及び評価等

- 1 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営の状況について、（一）の 2 の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。
- 2 市町村立図書館は、前項の点検及び評価のほか、当該図書館の運営体制の整備の状況に応じ、図書館協議会（法第十四条第一項に規定する図書館協議会をいう。以下同じ。）の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、図書館の事業に関して学識経験のある者、図書館の利用者、住民その他の関係者・第三者による評価を行うよう努めるものとする。
- 3 市町村立図書館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。
- 4 市町村立図書館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワーク（以下「インターネット等」という。）をはじめとした多様な媒体を活用すること等により、積極的に公表するよう努めなければならない。

さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項

(目的)

第1条 この要項は、図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3の規定に基づき実施する、さいたま市図書館（以下「図書館」という。）の運営状況に関する評価（以下「評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(評価の対象)

第2条 評価は、図書館の運営状況について、毎年度行うものとする。

(目標、指標及び目標値)

第3条 評価にあたっての目標は、別表第1に定めるとおりとする。

2 目標ごとの指標及び指標ごとの目標値は、図書館に設置される図書館評価専門部会が検討し、中央図書館長が定める。

(評価者)

第4条 評価にあたっては、図書館評価専門部会が、指標の達成状況を点検するとともに、さいたま市図書館協議会の意見を聴取した上で、評価案を作成し、中央図書館長が決定する。

(評価及び評価の段階)

第5条 目標ごとに各指標の達成状況について指標別評価を行い、その結果を評点として数値化し、評点の平均により当該目標の総合評価を行う。

2 評価の段階は、4段階とし、段階ごとの評価基準は、別表第2に定めるとおりとする。

(評価票)

第6条 評価の内容及び結果を記録する評価票の様式は、様式第1号に定めるとおりとする。

(評価結果の公表)

第7条 図書館は、評価の結果をホームページ等を活用して、市民に公表するものとする。

(評価結果の活用)

第8条 図書館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第9条 評価に関する庶務は、中央図書館資料サービス課において処理する。

(委任)

第10条 この要項に定めるもののほか、この要項の施行に関し必要な事項は、中央図書館長が別に定める。

附 則

この要項は、平成24年11月5日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

別表第1（第3条関係）

目標
図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化
幅広く計画的な資料の収集・保存
地域の歴史と文化の保存
ICT（情報通信技術）を活用したサービスの充実
文化事業の開催
あらゆる世代に向けたサービスの充実
レファレンスサービスの充実
地域の課題解決
生活支援サービスの展開
バリアフリーサービスの充実
多文化サービスの充実
子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携
図書館評価と市民意識の反映
市民との協働
関連機関（公共機関・民間機関・NPO）との連携
地域の特色を生かした運営
親しみやすい図書館づくり
職員の資質・能力の向上
専門的職員の配置
施設・設備の充実
持続的で安定した図書館の運営
危機管理体制の強化

別表第2（第5条関係）

指標別評価	評価基準	目標達成率	評点
a	目標値を達成できた	目標値の100%以上	3
b	目標値をほぼ達成できた	目標値の80%以上100%未満	2
c	目標値をあまり達成できなかった	目標値の50%以上80%未満	1
d	目標値を達成できなかった	目標値の50%未満	0

総合評価	評価基準	評点の平均
A	目標を達成できた	2.7以上
B	目標をほぼ達成できた	2.0以上2.7未満
C	目標をあまり達成できなかった	1.0以上2.0未満
D	目標を達成できなかった	1.0未満

さいたま市図書館評価票（平成 年度）

【目標】		【総合評価】	
【取組内容】			

指 標	平成 年度の目標値	平成 年度の実績	指標別 評価

【評価の説明】

さいたま市図書館ビジョン

さいたま市の図書館が、今後、取り組むべきサービスの目標や指針、管理運営などの基本方針を「さいたま市図書館ビジョン」として平成25年3月に策定しました。

図書館ビジョンでは、さいたま市の図書館を「地域の知の拠点」として位置づけ、その役割を果たしていくため、

知的好奇心に応える図書館

生きる力を支える図書館

市民とともに歩む図書館

誰もが安心して使える図書館

の4つの目標を掲げており、これらを実現していくための22の基本方針を定め、今後、総合振興計画の実施期間に合わせて、この基本方針を達成するための取組を平成25年度から平成32年度までの8年間実施してまいります。

■ さいたま市図書館ビジョン ■

1 知的好奇心に応える図書館

生涯学習と情報発信の拠点として市民ニーズに応える資料を収集・保存し、さらに情報化に対応したサービスを提供して市民の知的活動を支援します。

2 生きる力を支える図書館

誰もが利用しやすいサービスをすすめ、市民が自ら必要な知識・情報・スキルの獲得ができる環境を整備します。

3 市民とともに歩む図書館

図書館運営の現状と課題を市民と共有し、市内で活躍する豊富な人材と連携・協働することにより、地域の特色を生かした運営をします。

4 誰もが安心して使える図書館

さいたま市図書館ネットワークを活用したサービスを展開するとともに、市民の要求に的確に応えるため、図書館職員の資質・能力の向上を図ります。市民の誰もが安全安心に利用できるよう、施設・設備の充実に努めます。

さいたま市図書館ビジョンに基づく取組内容(平成 28 年度)

1 知的好奇心に応える図書館

(1) 図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化

- 図書館の利用促進のために、広報媒体等を効果的に活用し、PR に努めます。
- 各図書館の広報担当者が発信する情報を一元化し、ホームページやメールマガジン等を活用して図書館サービスについての情報発信に努めます。
- 図書館のサービスや催し物の広報活動を積極的に行い、記者発表資料などを通じて、図書館を利用したことのない人にも図書館の情報が届くようにします。
- 図書館利用のマナーをPRし、誰もが気持ちよく利用できる環境作りを推進します。

(2) 幅広く計画的な資料の収集・保存

- 市民のニーズに応えるため、効果的・計画的に資料を収集・保存し、幅広い蔵書を整備します。
- 寄贈資料や除籍資料を有効活用します。
- 電子書籍サービスの充実に努めます。【新規】

(3) 地域の歴史と文化の保存

- 地域の情報拠点として行政資料・地域資料を積極的に収集します。また、地域の記録を残す活動を支援します。
- デジタル化した地域資料をインターネットで公開します。【新規】

(4) ICT(情報通信技術)を活用したサービスの充実

- 図書館ホームページのコンテンツの充実に努めます。
- 無線LANの導入を推進し、ネットワーク環境を整備します。
- 利用者自身が迅速に貸出手続きを行えるよう、自動貸出機の導入を推進します。

(5) 文化事業の開催

- 講座・講演会・映画会・展示会等を開催し、市民の文化活動・読書活動を支援します。
- 文化事業開催時にアンケートを実施し、市民のアイデアを生かした事業を企画・開催します。

2 生きる力を支える図書館

(6) あらゆる世代に向けたサービスの充実

- 読書に関する催し物等を実施し、本に親しむ機会を提供します。
- テーマ展示を充実させ、読書の楽しみを広く伝えます。
- 児童・中高校生・社会人・高齢者等、それぞれの世代に向けた本の紹介資料を作成します。
- 乳幼児から高齢者まで、誰もが利用でき、交流の生まれる市民の広場となるよう努めます。

(7) レファレンスサービスの充実

- レファレンスサービス事例のデータベース化を進め、過去の質問や回答など調査に役立つ情報を提供します。
- パスファインダーやテーマ別ブックリストを作成するとともに、ホームページに掲載して市民に広く公開します。

- 内部研修を実施し、また外部の専門的な職員研修に参加して調査技術の向上を図ります。
- 国立国会図書館や公立図書館、大学図書館、専門機関と連携し、高度な調査・相談にも対応します。

(8)地域の課題解決

- まちづくり等、地域の課題となる分野に関して、市民に必要とされる資料を収集し提供します。
- 市の行政機関に対して、業務に関する資料や情報を提供します。

(9)生活支援サービスの展開

- ビジネス、法律、医療、健康、福祉及び子育てに関する情報の提供等、市民の暮らしに直接関わる分野の情報提供に努め、それぞれの分野の専門機関との連携・協力を図ります。

(10)バリアフリーサービスの充実

- 図書館の利用に障害がある方へ配慮した、資料や機器・機材の整備・充実に努めます。
- 大活字本や字幕入り・手話入りの映像資料等の所蔵リストや利用に関する情報を、障害のある方にもホームページ等で利用しやすいように提供します。
- 活字による読書に障害のある方のために、関係機関・団体と連携を図り、録音図書や点字図書・点訳絵本の作製・貸出、対面朗読などを実施し、きめ細かい図書館サービスを提供します。
- 来館が困難な方への宅配サービスに関する広報活動を積極的に行います。

(11)多文化サービスの充実

- 様々な言語や文化の情報を提供するために、外国語資料の収集に努めます。
- ボランティアや関連機関と協働し、日本語以外を母語とする人たちにも、生活に役立つ情報を提供します。
- ボランティアと協働し、多言語でのおはなし会を実施します。
- 市民が様々な言語に気軽にふれることができるよう、外国語絵本等の展示を行います。【新規】

(12)子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携

- 「さいたま市子ども読書活動推進計画(第三次)」に基づき、各図書館で、子どもが読書に親しめる環境づくりを進め、「不読者」の割合を小学生 2%以下、中学生 5%以下にします。
- 中学校へ実施している学級文庫用図書の貸出を小学校にも拡大します。
- おはなし会や本に関する催し物等を実施し、本に親しむ機会を提供します。
- 子育て世代やシニア世代、保育者や教職員等を対象に読み聞かせや本に関する講座・講演会を開催するとともに、「子どもといっしょに読書タイム」を提唱し、家庭での読書の大切さを伝えます。
- 子ども向けの読書案内や読書手帳を計画的に作成し、子どもと本をつなぐ手助けをします。
- 学校図書館支援センターによる教科関連図書の収集・貸出・レファレンス・情報提供を行います。
- 保育園・学校等を対象に読み聞かせや図書館オリエンテーション、貸出サービスを実施します。
- 市立高等学校図書館との連携を進めます。【新規】

3 市民とともに歩む図書館

(13)図書館評価と市民意識の反映

- 図書館の運営状況及びサービスの評価を行い、その結果を市民に公表します。
- 図書館サービスの充実・向上を図るため、図書館の利用に関するアンケートを実施します。

●図書館協議会を開催して市民の意見を聴き、図書館サービスを向上させます。

(14) 市民との協働

●図書館で活動するボランティアへの支援や、ボランティアと連携した事業活動により、市民との協働を積極的に進めます。

●区民まつりをはじめ、地域で開催される催し物等に積極的に参加します。

(15) 関連機関(公共機関・民間機関・NPO)との連携

●県立図書館や県内市町村立図書館との連携を進め、相互貸借や地域資料等の分担収集・保存等を行います。

●国立国会図書館や公立図書館、大学図書館、専門機関との連携により、専門的調査の充実を図ります。

●市の関連部局や他の教育・文化・福祉施設と連携した事業を行います。

(16) 地域の特色を生かした運営

●サッカー、鉄道、盆栽、人形等、地域の歴史・特色に関連した資料を活用し、図書の展示や紹介等の情報発信を行います。

●地域に係る団体・機関との連携・協働による事業を行います。

4 誰もが安心して使える図書館

(17) 親しみやすい図書館づくり

●利用者への挨拶や、声かけで明るく親しみやすい窓口づくりに努めます。

●利用者に、わかりやすく丁寧な応対をします。

(18) 職員の資質・能力の向上

●人材育成を図るため、研修計画を作成し実施します。

●職員のスキルアップのため、外部研修にも積極的に参加します。

(19) 専門的職員の配置

●図書館サービスの向上を図るために、専門的職員の配置に努めます。

●司書は専門性を生かし、資料・情報の提供及び紹介などを通じて、市民の高度で多様な要求に適切に応えます。

(20) 施設・設備の充実

●「図書館施設リフレッシュ計画」に基づき、春野図書館・岩槻東部図書館の改修を行います。

●大宮図書館の移転に向けて準備を行います。

●各図書館内を点検し、わかりやすい案内表示を作成する等施設のバリアフリー化に努めます。

(21) 持続的で安定した図書館の運営

●図書館サービスの調査研究を行うため図書館専門部会を開催して、問題点や課題を整理し、計画的で円滑な運営を行います。

●窓口等業務委託の評価・検証を行い、図書館サービスの充実と向上に努めます。

●広告料収入等、財源確保や経費節減の取組を継続的に進めます。

(22) 危機管理体制の強化

- 「図書館危機管理対応マニュアル」を基に、利用者の安全確保のため危機管理体制を強化します。
- 防災訓練や研修を通じて職員の危機管理意識を高めます。

平成29年度 さいたま市図書館評価 報告書

(平成28年度事業対象)

平成29年11月

さいたま市立中央図書館

〒330-0055

さいたま市浦和区東高砂町11-1 (コムナーレ8階)

電話048-871-2100